
最果てで

兵糧倉庫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

最果てで

【Nコード】

N4142U

【作者名】

兵糧倉庫

【あらすじ】

シャフ、と名乗る青年がある出来事を境目に、自由気ままに旅をしようと思い、面倒事に関わらないように生きてきた。だが、それは少しの間の休息でしかなかった。シャフの過去は？シャフのこれからの旅はどうなるのかを、詳しく書いていくのが目標です。

プロローグ（前書き）

説明回。

長ったらしく色々書いてあります。

プロローグ

活気のある街には街道ある。

それには商人の流通をよくして、経済を活性化させ景気を良くしようという意図がある。

もちろん、街道を整備するにはそれ相応の金がかかる。

それゆえにそれなりの大きさの街で無いと、街道は通っていないことが多い。

そんな街のひとつ、ここ ヴァルニー にも街道が通っている。

この街に来るのは大抵、山に関係する仕事や、山に住み着くモンスターと呼ばれているものを倒すことを生業としている者しか来ない。シヤフと名乗っている青年はそんな人々の中の一人である。

この青年の場合は後者であるが。

「ふああ。」

シヤフは一つため息をこぼすと、ようやく回ってきた門番の検査を受けつつも周りを見渡す。

周りに広がっているのは草原だけだ。

此処とは反対側にはそれなりの高さを誇る山があるらしい。

が、此処からでは外壁が邪魔でまったく言っていないほど見えない。にしても門番は熱くないのだろうか？

こんな草原では、外壁以外に遮るものがなくここでずっと立っている門番は門のある東西南北の四か所にいなければいけない。

山側は涼しいのかもしれないが、此方側の門番なんて地獄でしかないだろう。

門番はすぐにモンスターを倒すためらしいが、常にフルプレートでいなければいけないらしい。

難儀だな、といつも思う。

と、そんなことを考えているといつの間にか検査は終わっていたらしい。

門を通る際に払わなければいけない関税を払い、検査を通った証しとしての証書を頂き、門をくぐった。

そこには、まさしく活気のある街があった。

人通りも多く、辺りからは絶えず人の声が聞こえてくる。

地面と家に使われているのは赤いレンガだ。

場所によつては枯れた植物を屋根にしているところもあるらしい。

少し小腹がすいたのでそこらの露店で果物でも買って、宿まで食べながら行こうかなどと考えていると、前を歩いていた人たちが端によけ始めた。

それにならない、自分も脇へと避ける。

ちやつかり買っておいた赤く瑞々しいリンゴをかじりながら。

因みにこのリンゴ、なんと80ヴァルで買ったのである。

そこそこ安く買えて、満足している。

シャリ、と齧るとリンゴ特有の甘さが口の中に広がる。

それを堪能していると、慌しく馬が走って来るかのような音がした。耳は正常に働いていたらしく、馬車とそれを引く馬が土ぼこりが舞うような勢いで走り去って行った。

「…………ツ。」

奥歯を噛み締め、出ていこうとする我が身を諫める。

今、自分の顔をみっともないだろうが、こんな自分より、先ほどの馬車に乗っていた少女の方が辛いだろう。

走り過ぎる時に見えた彼女の肢体には無惨にも、鞭や切られたような跡、更には身体のいたる所に青痣が出来ていた。

先ほどの少女はボロ布一枚を付けて、手足には手錠を付けていた。

先ほどの馬車が行ったのは　と、馬車が向かった方向に目を向け

ると、この街西の外壁の外にあるスラムがある方向だった。

「俺は、こういうキャラじゃないんでね。」

俺は誰に言つともなく呟き、スラムとはほぼ反対の場所にある城の方向へと歩みを進めた。

プロローグ（後書き）

昔の自分が書いた小説が恥ずかし過ぎて、小説を読み、勉強して来
ました。

この小説は作者が未熟な為、一回の更新で、二千文字程度、しかも
更新は月一が目標です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4142u/>

最果てで

2011年10月6日01時00分発行